

# 季刊 すまいる



## 円山公園 「祇園しだれ桜」

ソメイヨシノ、山桜などが咲きほころぶ名勝円山公園。ひときわ目を引くのが、園の中央に咲く、通称「祇園のしだれ桜」（品種名は一重白彼岸枝垂桜）。現在2代目で核守の15代佐野藤右衛門の手により植栽され、樹齢90年余り。16代目核守が続ける。高さ約12m、薄紅色の花に染められた枝が広がるさまは優美であやか。



## タケノコの 木の芽あえ

5月上旬ごろまで収穫される、京の伝統野菜の一つ「京たけのこ」。同じく旬を迎える木の芽（山椒の新芽）をすり潰し、白味噌などと混ぜてあえる。「うちの郷土料理」次世代に伝えたい大切な味「農林水産省」にも選定。肉厚で柔らかくくえぐみが少ない「京たけのこ」と木の芽の織りなす豊かな味わいを楽しめる。



## 新タマネギ

5月初旬頃にかけて出回る。収穫後すぐに出荷されるので、みずみずしく柔らかく、甘みがある。オニオンサラダやサラダなど生食にぴったり。タマネギ独特の香りなどのもとななる硫化アリルは、ビタミンB1の吸収を助けて新陳代謝を活発にすると言われる。動脈硬化や高血圧の予防効果も期待されている。



## 白木蓮

高さ15m以上になる落葉高木で、卵形の可憐な花、高貴な香りを楽しめる。中国原産で日本には古くに渡来。今では寺院、公園や街路樹、庭木として春を彩る。京都市の指定保存樹の招善寺（北区）や、京都府の「森の京都」『天上の木』40選」に選ばれた如城寺（南丹市八木町）など名所も多い。

## 水度神社

平安時代初期の創建とされ、室町時代中期、1448年に建立された本殿は国の重要文化財指定。檜皮葺の屋根で正面に千鳥破風と言われる三角形の装飾屋根が付いた特徴的な造り。昨年、37年ぶりに大改修が行われ、鮮やかによみがえった。参道から境内一帯は「京都の自然200選」。全国でも珍しい「おかげ踊囃絵馬」（京都市登録文化財）も残る。





## || すまいる対談 子育ての社会化と医療 ||

# 星 北斗氏 × 中野 博美氏

福島県・星総合病院理事長

医療法人啓信会 理事長

2011年3月の東日本大震災と2019年10月の台風19号による水害という2度の災害に見舞われながら、地元福島県の発展や教育に尽力され、また原発事故による放射線被害調査の陣頭指揮も取っておられる、星総合病院理事長・星北斗先生をお迎えし、災害に対する心構えや地元の活性化について、様々なお話しを伺いました。

### 台風19号による

### 水害の被害について

**中野** 2019年の10月13日、福島県郡山市にある星総合病院は、台風19号による水害で甚大な被害を受けたそうですが、それに対してどのような取り組みをされたかについてお話しいただけますか。

**星** 私どもの病院は、郡山市の中心部にありますが、阿武隈川の支流である逢瀬川が氾濫して、10月13日の未明に病院の1階部分が浸水しました。病院が建っている4.7haの土地が全面水没し、建物の中は、深いく所どころで20cmから30cmの水が入り、CTやMRIなどの医療機器は使えなくなりました。被害総額は25億円くらいになります。

1階の入院患者34名は12日の午後9時から2階以上の階に既に移動していましたので、1階の病棟への浸水が13日の午前3時頃始まりましたが、人的被害はありませんでした。午前6時過ぎには徐々に水が引き始め、13日の昼過ぎには院内の水が引いたので、14日は職員総出で清掃と消毒作業をその日の夕方までに終えました。新規の入院患者や救急の受け入れを再開するには

4〜5日かかりましたが、通常の診療は翌日から再開しました。

病院のある場所は、元々水害の可能性のある低地にあり、工場跡地のため有害物質が出るという噂もあった地域なので、病院新築の際には1mの盛土をしていました。しかし今回は想定を越えた水害で、最大で1階部分の70cmくらいまで浸水しました。ホールがある1階は全部水に浸かりました。保育園も、学校の図書室も全て水没して、図書が何千冊もたけになりました。

**中野** 大変な被害でしたね。

**星** 東日本大震災の時も大きな被害を受けましたが、地震の場合は壊れた部分などの被害状況がすぐに把握できました。ところが、水害というのは後になって被害が拡大するのです。例えば壁が水を吸って時間が経過してから支障が出てきたり、断熱材や床が水を吸って後で段差が生じるような、当初の予想よりも大きな被害があつて今仕事をしています。今2月の終わりですが、6月の終わりまでに全ての工事を終える予定で進めています。次に水害が起きた時に水が入って来ない病院にしようということ

で、1 m 20 cmの水が来ても病院の中に被害がないように、遮水壁を回したり、各所に排水装置を付けたりという作業を行っています。6月末には工事が終わる予定です。今回の被害状況と復旧作業や今後の備えについて、皆様にお知らせする形の本を作る予定です。

## 県民健康調査検討委員会での 甲状腺検査の意義や課題

**星** 2011年の東日本大震災の原発の事故の影響で、空气中に放射線ヨウ素が飛散し、それが子供達の体内に入ると、甲状腺に癌を引き起こすのではないかと不安があります。放射線ヨウ素は体内に取り込まれると甲状腺に集まりやすく、特に子供の甲状腺がんの発生リスクとされています。あの時飛んだレベルと、その後の対処法、牛乳の出荷停止や食べ物の制限などで、実際に子供達の体内に入った放射線量は非常に少ないと思われませんが、仮に何らかの健康障害が起こるのだとすれば、子供の甲状腺がんが一番発症リスクが高いだろうということ、甲状腺検査が始まりました。

**中野** 甲状腺の放射性ヨウ素による内部被ばくを防ぐために「安定ヨウ素剤」が使われますが、あの事故の時は安定ヨウ素剤は配布されたのでしょうか。

**星** 福島県は放射性ヨウ素の飛散量が水準に達していないと予測して安定ヨウ素剤の配布・服用の指示を行いませんでしたが、原発周辺地域の市町村である福島県三春、大熊、双葉、富岡の4町では独自に配布・服用の指示を行い、安定ヨウ素剤を服用しました。実際に服用したのは服用指示を受けた人の64%でしたので、子供達全員が服用したわけではありません。

ただチェルノブイリのような内陸でのヨウ素の飽和度と、日本のようなところではずいぶん違うと言われていて、そもそも飛散した量が違うので、それが体内に入ることに対する色んな対策が違います。しかしチェルノブイリの甲状腺がんは、とても有名なわけです。原発事故といえば、子供の甲状腺がんというような意見もあり、2011年の夏から調査をはじめました。他にもどれくらい被ばくをしたのかというような基本調査や、妊産婦あるいは出生児に対する調査、心の問題に対する調査などを行いました。2011年の夏に調査が始まって今年で丸9年になります。4回目の調査が大体終わって、今後どうするかというような局面です。

一番心配していた甲状腺がんそのものが増えるという証拠はどうやらなさそうです。というのはチェルノブイリは被災時から10年位の間の調査で見ると、当時の年齢が若ければ若いほど、甲状腺がんの発症率が高いわけですが、ところが我々が今福島で

200例近く見つけていますが、38万人を4回調査して200人ですから私は少ないと思います。科学的に見てもどうやら影響が無さそうだとこのころまで来ましたが、今はむしろ科学的にがんが増えたということよりも、10才15才で甲状腺がんを切ると自体が疑問視されています。

**中野** 切った人もいるのですか。

**星** 80%切っていますね。当時はがんを見つけたら切るという気運もあり、まだよく分からないものに直面していたので、皆がこぞつてがんを取り除くということをしませんが、過剰診断だという話になっていて、放つて置いても問題がなさそうながんを、

小さい段階で見つけて吸引してみたら、細胞診ではがんらしいから切りましょうということになった。最近では切らなくても良いのではという考えが浸透してきて、経過観察をするという方向になってきています。

小児の甲状腺がんというのは、5年生生存率も10年生生存率も実は100%で、切らなくても良いがんを切り、見つけなくていいがんを見つけているという誇りがあるわけです。特に学校で行う集団検診については、本当は受けたくない、けれども何となくみんなが受けるから受けている人が多いのではないかと言われていて、それが問題視されています。実際18才を超えると検診を受ける比率が20%に下がります。18才未満はほぼ90%くらいの人が受けていますので、そこには色んな意見があります。強制されているのではないかとこの意見もあれば、18才くらいまでは診ておいた方が良いという意見もあります。うちの娘も18才までは学校で検診を受けましたが、それ以降は22才の現在まで検診は受けさせていませんし、本人も受けないと言っているのです。段々それはどこかで収束して行って、心配な人は受けるし、そうでない人は強要されないという範囲において、それを受けないということになってくると思います。ただ、学者の中には検診受診者が減ると、甲状腺がんの状況が被ばくとの関連があると追及するための材料が失われると言う人もいます。



**中野** 甲状腺がんの権威、長崎大学の山下俊一先生はどういうご意見なんですか。

**星** 山下俊一先生は、チェルノブイリにも直接行ってどんな影響があるか調査されていますし、原爆の健康影響についても第一人者です。山下先生は2011年に福島県放射線健康リスク管理アドバイザーとして、我々と一緒に、どのように検診を進めていくか、県民の不安にどう寄り添うかということをやってくれました。先生は事故によって受けた線量などから、甲状腺がんが増えることはなさそうだと、当時既に分かっておられました。ただし県民が不安に思っている以上検診をするのが選択肢であるということと、どこかで止めるタイミングがくるということ、同時に、当時は検診をしてもしなくても福島県の先生方が非難を受けることになりかねないので、自分以外から来た人間だから自分が判断したということにすると言っていたきました。事故から数年間、福島のために大変ご尽力いただきました。

**中野** 科学的に中立にそういう事業を進めたということですね。今後、低年齢の子供にできることが危惧されるのですか。

**星** 事故当時の低年齢の子供が10才くらいになると、ぐっと増えるのではないかと思います。



うことが、チェルノブイリのシナリオから想定されます。ただまだ10年なので、今やめて良いのか、きちんと見守らなければいけないという議論があります。ただ18才になると途端に検診の受診をやめてしまう。ですから学校で捕まえられる間、当時の0歳児が18歳になる頃までは継続した方が良いのではないかと思います。

今年9年目ですから、あと9年、当時検診を始める時に30年続けると言われていたのですが、私は最長20年かなと思っています。子供達にも色んな意味で心理的負担が過度にならないように、親御さんたちも心配をしないようにということを、今考えています。ネットやマスコミには色々叩かれましたりしますが、県や国にはきちんとした支

援を求めるのは当然ですし、子供達や親御さんの心配をどのように払拭するか、そういう意味で言うと私自身は全く揺るぎない信念を持って調査に携わっています。

### 子育てを社会化する意義とは

**中野** 星先生は病院や医療施設だけでなく、保育園や福祉方面など多岐にわたるご活躍をされていますが、地域の求心力や地域の魅力の向上についてはどのようにお考えでしょうか。

**星** これから先どの街も老人や子供が減り、人口が減少し町がなくなるという危機に瀕しています。郡山は34万人の町で周辺人口を入れても大体50万人から55万人です。日本の人口減はこれから年間35万人から下手をすると50万人ずつ減って行くので、我が町が一個ずつなくなるということに匹敵するわけです。人口が減り、町として姿をなさなくなることが一番の危機感ですし、働く人もサービスを受ける人もいなくなると病院も成り立たなくなります。

医療や介護、福祉は、今までは公的なサービスで、国や地方自治体の責任とお金を使って面倒を見るという仕組みになっていました。しかし行政ができることには限界があるのでないかと思えます。行政がアクションプランを書いて実行することが、本当に効果を上げ価値を持つのかというと、

かなり懐疑的だと私は思っています。では、誰がリーダーシップをとるのかというと、それは私が考えるには、町に住んでいる人々自身がこの町をこれから先維持し、繁栄させていくことです。

私自身は町づくりをしていく最初の原動力は何かというと、子供が生まれることだと思っています。生まれてきた子供が成長し、仕事をして消費をするようになるためには、少なくとも20年位はかかることを考えると、子供を増やして行くためには子育てをする人たちが集まって来る住みよい町にしないといけない。そういうアクションプランが立てられる人は誰かということ、子供達や老人に病院でサービスを提供している、我々の仲間である医療従事者、22才くらいから65才くらいまでの世代の人達が、ここで住みよい町づくりをし、そして人が集まって来る所にしていくという思いを持たない限り、この先老人がいなくなり、それと同時に老人にサービスを提供する人々もいなくなり、子供もいなくなり、そして町がなくなっていくというストーリーは容易に想像できるわけです。ただそのプランが5年や6年ではないので、長いスパンでものを考えることが重要です。少なくともその22才から65才までの人材を抱える我々が、このことに無頓着でいるわけにはいかないと思えます。

**中野** 子供が増えることで、親の負担は大

きくなると思いますが、そこはどうお考えですか。

**星** 私は今、保育園を一生懸命やっていますが、若い人にどのように子供を産み育ててもらおうかにかかっています。社会全体が子供を産み育てるということを楽しみにし、それに多くの人が参加してもらわなければなりません。両親だけの責任ではなく、社会全体がそれをバックアップする。親子であらゆる世代と繋がって、社会というものが連帯によって成り立っているということを理解し、そして親が子供を持ち、その子供が子供を持つということを連綿と続けていくことが大切なのです。お父さんお母さんの努力もさることながら、地域社会全体の努力というものが絶対に必要です。その地域社会全体をサポートしていくのは、我々のような医療機関であると思います。医療機関は幾つかの世代に密接に関わっている、つまり子供を産み育て、また実際に働いている世代である、うちの病院で働く職員達は、子育ての担い手でもあるのです。全体を見渡して、色々な情報が入り、何を求めている何を応えればどんな風になっていくかということ想像するには、医療という世界は最も適していると思います。

**中野** 以前、児童相談所の機能も病院に取り込めばいいとおっしゃっていましたね。

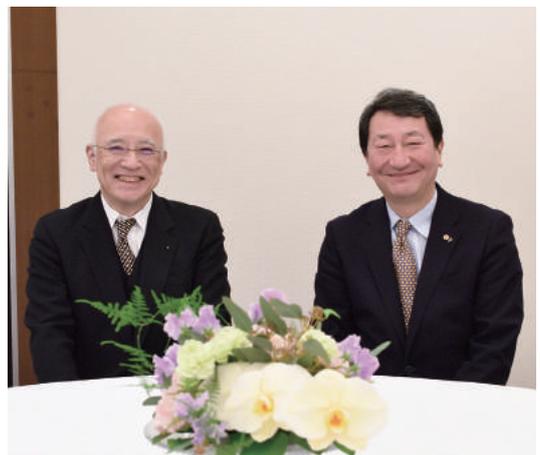
**星** そうなんです。児相機能は僕は病院でやるべきだと思っています。児童相談所は深刻な虐待などの案件に集中してもらって、それ以外の部分の色々な面倒を見るのは民間が引き受けると思います。社会の責任は一番適していると思います。社会の責任は今までは国、市や町でしたが、気付いた私たちが踏み出すということ以外に答えはないと思うのです。

私は今は5つ目の保育園を始めて、555名の子供を預かっています。つい最近、福島県最大の保育事業者と報道されました。福島県全体でいうと年間2万人ぐらゐの子供が生まれるのですが、郡山市は30万都市で大体30000人から40000人が生まれます。大体人口の100分の1が生まれてきます。34万都市で5歳までの子供が150000人くらいいる訳です。少なくともそのうちの10%を預かるようになるのが夢ですね。三春町は160000人の町ですが、年間100人ちょっとしか生まれません。5才までの子供は500人で、そのうちの230人を預かっています。この子供達とその親御さん達に、町を作っていく上で、教育もそうですが、将来に夢を育てる環境を作る役目を担えればいいと思っています。

子育てを親と子の中に閉じ込めてはいけない、子育てを社会化し、社会全体で面倒を見る仕組みにしていかなければなりません。親が子供と2人で閉鎖的に過ごしてい

て、どうしたらいいかよく分からなくなるのはごく当然なことだと思います。人間は子育てを社会化することによって人間としての歴史を築いてきました。子育ての社会化が人間の発展と結びついてきたのです。核家族化が進んで久しく、子育ての社会化は段々と失われています。社会全体で子供を産み育てる、親や祖父、祖母を含め、社会全体が子供達に目を配り、手を差し伸べる環境を作ってサポートしていくことが、最終的には社会を守ることに繋がると考えています。

社会が続かなければ我々が提供しているサービスも必要とされなくなるのですから、医療に携わる人間が早く気づいておくべきだし、気づいたら行動する。その行動とは、子育ての社会化をどのように定着させるかに尽きるとなっています。当初は私の発想を理解してくれない人も沢山いたのですが、10年位言い続けていると理解者も増えてきて、あと10年経てば全く違う世界ができてくるのではないかと期待しています。その時に医療機関や医療に携わる人間がかかわることの価値が、皆に認識される時がくると思います。なくなる町と維持される町の勝敗はこの10年で決まると思っています。それぞれの町にある医療機関や医療に係る人たちが同じ思いを持てば、それぞれの町が維持され、町として機能すると信じています。



公益財団法人  
星総合病院  
理事長 星 北斗



- 1964年 福島県生まれ
- 1989年 東邦大学医学部卒業
- 1989年 医系技官として旧厚生省入省 秋田県保健福祉部技術吏員
- 1992年 労働省労働基準局安全衛生部化学物質調査課係長
- 1996年 ハーバード大学公衆衛生大学院客員研究員(平成9年6月まで)
- 1998年 財団法人星総合病院副理事長
- 1998年 日本医師会総合政策研究機構主席研究員
- 1999年 ポラリス保健看護学院学院長
- 2000年 日本医師会常任理事(2004年3月まで)
- 2001年 東邦大学医学部客員教授
- 2002年 日本看護学校協議会常任理事
- 2005年 福島県医師会常任理事
- 2006年 郡山医師会理事(2015年3月まで)
- 2008年 福島県立医科大学臨床准教授・福島県立医科大学医学部非常勤講師
- 2008年 財団法人星総合病院理事長
- 2012年 公益財団法人星総合病院理事長
- 2015年 福島県医師会副会長 現在に至る
- 2019年 世界医師会に理事として再参加

# 患者様の早期回復、 生活習慣病予防のため 栄養面をサポート

## すまいる レポート

啓信会グループ  
関連施設



### 栄養管理部門 (京都きづ川病院内)

病気の早期回復、生活習慣病の予防には、栄養面を考慮した食生活が欠かせません。京都きづ川病院では、栄養管理部門のスタッフが患者様の食事の管理、栄養面のサポートを担っています。

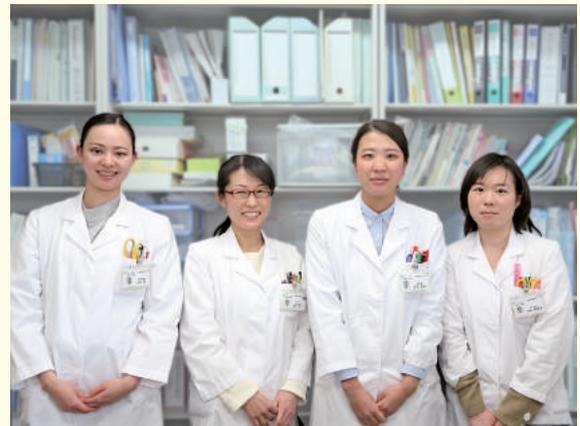
#### 患者様ひとり一人の栄養を管理

栄養管理部門は現在5名の管理栄養士が、主に「給食管理」と「栄養管理」の業務を担当しています。入院患者様の食事を管理する「給食管理」では、美味しく栄養を取っていただくための食事メニューの作成と、安全な食事を提供するため衛生面の管理や厨房のメンテナンスなどを行っています。調理は管理栄養士が作成したメニューにしたがって、30名ほどのスタッフが院内の厨房で腕を振っています。

入院・外来患者様の栄養をサポートする「栄養管理」では、すべての入院患者様に担当の管理栄養士がつき、必要な方には入院中の食事をチェックし、栄養管理計画を作成します。食事量の少ない患者様には、食べやすいものうか



藤田朋子主任管理栄養士



栄養管理部門スタッフ

がってメニューを調整しています。外来患者様には、医師が必要とした場合に栄養指導を行います。糖尿病患者様の食事指導など、食品サンプルを使ったわかりやすい説明を心がけています。また、定期的に患者様や地域の方にもオープンにした、健康増進セミナーや糖尿病教室も院内で開催しています。

#### 栄養サポートチームの活動

院内では、他部署と連携して患者様の栄養をサポートする栄養サポートチーム(NST)も活動しています。医師を中心に看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリ、臨床検査技師、医療事務スタッフなどが3〜4名のチームで回診、患者様の栄養状態を確認します。入院患者様の中で栄養状態の優れない方をピックアップし入院

中の栄養低下の予防、治療・リハビリの効果が高まるよう、チームメンバーそれぞれの専門知識を活かした連携で栄養サポートを行います。

#### さらに充実したサポートへ

本年4月からは、回復期リハビリテーション病棟に対して専従の管理栄養士がつくことになりました。このことによって、患者様とのコミュニケーションの機会も増え、病棟担当の医師とも連携が良くなることで、さらにきめ細やかな行き届いたサポートを目指しています。

藤田朋子主任管理栄養士は「栄養改善が必要な患者様には、食べたいものなどご希望をうかがいながら、改善のための答えを探していくのが私たちの仕事。ご希望と栄養面が両立して解決できたときにやりがいを感じます」と話しています。また「今後は給食管理の面でも、嚥下食の分類をもう1種増やすなど充実させていきたいですね」と、患者様に寄り添ったサポートのため日々努めています。



栄養指導で使用している食品サンプル



# やってみよう！

## 健康体操



### 簡単筋力トレーニング編③

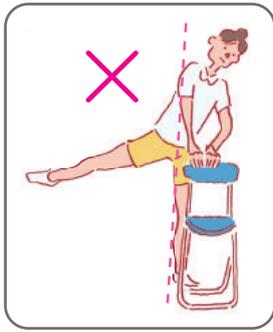
リハビリテーションセンターがおすすめる健康維持のための運動プログラムを紹介します。今回も椅子を使って行える、ご高齢の方でも比較的取り組みやすい筋力アップ運動3つ。転倒予防、腰痛予防につながるプログラムですので、介護されない体づくりにも役立ちます。

#### 1

### 片足立ち・足上げ運動

立位・歩行時の支持足  
(地面に着地している方の足)  
のふらつきを防ぐ

- 椅子や手すりを持って立つ
- 片足を横に上げて5秒間保つ
- 左右交互に10回×2セット



**ここがポイント!** 体が横に傾かないよう気をつけましょう。傾かない範囲で、両手の間隔を狭くすると効果があがります。

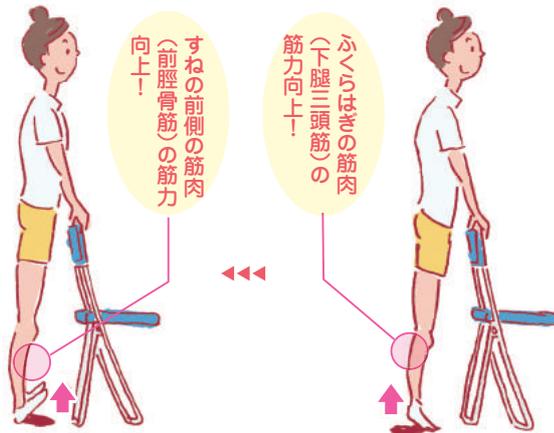
#### 運動プログラム

#### 2

### かかと上げ・つま先上げ運動

歩行時の蹴り出し、踏み込みに  
必要な筋力を強化

- 椅子や手すりを持って立つ
- ゆっくりとしたリズムでかかとを上げる
- ゆっくりとしたリズムでつま先を上げる
- 各10回×2セット



**ここがポイント!** かかとやつま先は上げられる範囲で大丈夫です。勢いで上げずに、止まらずできるだけゆっくり上げるのがポイントです。

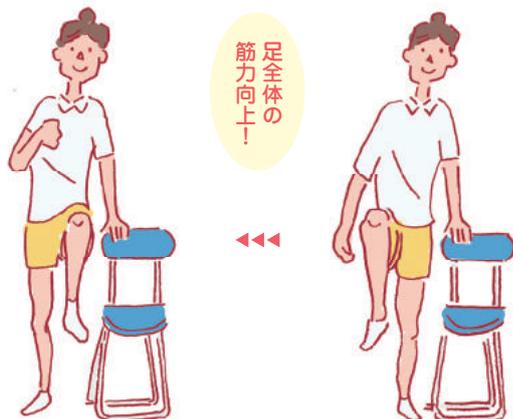
#### 運動プログラム

#### 3

### 足踏み運動

歩行時の安定に有効な  
バランス能力を向上させる

- 椅子や手すりを持って立つ
- 左右交互にゆっくりとしたリズムで足踏みする
- 左右交互に30回×2セット



**ここがポイント!** 足はできる範囲で高く、大きい動きでゆっくり上げましょう。左右にバランスが崩れないよう注意。胸をはって、膝の角度は目指せ90度。3つの運動とも、ゆっくり行うことが基本です。

運動ごとに使っている筋肉を意識することで、筋力増強効果が高まります。初歩的で負荷の少ない運動なので、毎日の習慣として取り入れてみてください。



理学療法士  
リハビリテーションセンター 係長  
北村卓也

病院内の行事や予定などのお知らせです。  
また、病院のホームページでは、最新の情報を掲載していますので、  
ぜひご覧ください。

啓信会  ウェブ検索

<http://kyoto-keishinkai.or.jp>



京都きづ川病院

院長 中川 雅生  
TEL.0774-54-1111 FAX.0774-54-1118

啓信会グループ

理事長 中野 博美

医療法人啓信会  
介護老人保健施設 **萌木の村**

<城陽市寺田奥山1-6>

施設長 稲葉 栄子

TEL .0774-52-0011

FAX.0774-52-0701

医療法人啓信会  
介護老人保健施設 **ひしの里**

<久世郡久御山町佐古内屋敷81-1>

施設長 植村 師子

TEL .0774-43-2626

FAX.0774-43-2627

医療法人  
啓信会 **きづ川クリニック**

<城陽市平川西六反44>

院長 青谷 裕文

TEL .0774-54-1113

FAX.0774-54-1115

関連施設

- 京都四条診療所 ● 四条健康管理センター

在宅サービス

- 訪問看護ステーション きづ川はろー
- ヘルプステーション 萌木の村 21
- ヘルプステーション リエゾン大津
- ヘルプステーション リエゾン大久保
- ヘルプステーション リエゾン四条
- ヘルプステーション リエゾン健康村
- ヘルプステーション リエゾン羽束師
- デイサービスセンター リエゾン健康村
- デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里
- デイサービスセンター リエゾン羽束師
- デイサービスセンター リエゾン宇治おおくぼ
- 認知症対応型デイサービスセンター リエゾン 萌木の村
- 認知症対応型デイサービスセンター リエゾン久御山ひしの里
- 介護予防デイサービスセンター リエゾン 萌木の村
- 居宅介護支援事業所 リエゾン大津
- 居宅介護支援センター 萌木の村
- 居宅介護支援センター リエゾン四条
- ケアプランセンター リエゾン健康村
- ケアプランセンター リエゾン久御山ひしの里
- ケアプランセンター リエゾン羽束師

- ケアプランセンター リエゾン宇治おおくぼ
- 城陽市在宅介護支援センター 萌木の村

地域密着型サービス

- 小規模多機能ホーム リエゾン萌木の村
- 小規模多機能ホーム リエゾン健康村
- 小規模多機能ホーム リエゾン久御山ひしの里
- 小規模多機能ホーム リエゾン羽束師
- 小規模多機能ホーム リエゾン宇治おおくぼ
- グループホーム リエゾン萌木の村
- グループホーム リエゾンくみやま
- グループホーム リエゾン健康村
- グループホーム リエゾン羽束師
- グループホーム リエゾン宇治おおくぼ

サービス付き高齢者向け住宅

- サービス付き高齢者向け住宅 えがお

教育部門

- ケアスクールリエゾン 大久保校
- ケアスクールリエゾン 大津校



医療法人 啓信会

京都きづ川病院

〒610-0101 城陽市平川西六反 26-1 TEL 0774-54-1111 FAX 0774-54-1119

URL <http://kyoto-keishinkai.or.jp/kizugawa>



日本医療機能評価機構  
認定番号 JC2251 号